

遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する  
法律に規定する第一種使用規程承認の申請に係る学識経験者の意見

1 第一種使用規程の承認の申請者、遺伝子組換え生物等の種類の名称及び第一種使用等の  
内容

(1) 名称

複合病害抵抗性イネ

- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. 日本晴 ;NIA-OS001-8
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. 日本晴 ;NIA-OS002-9
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. 日本晴 ;NIA-OS003-1
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. たちすがた ;NIA-OS004-2
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. たちすがた ;NIA-OS005-3
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. たちすがた ;NIA-OS006-4
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. 日本晴 ; NIA-OS007-5
- ・ *WRKY45* 遺伝子発現イネ、*Oryza sativa* L. たちすがた ;NIA-OS008-6

(2) 第一種使用等の内容

隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為

(3) 申請者

独立行政法人 農業生物資源研究所 理事長 廣近 洋彦

2 当該申請に対する意見

1(1)に係る申請は、平成25年6月4日付け又は平成26年4月15日付けで承認された申請(以下「前回申請」という。)について、使用等の場所等、内容を一部変更するものであり、以下の点について確認及び審査を行った。

(1) 使用等の場所の変更

前回申請では、独立行政法人農業環境技術研究所の隔離ほ場において使用等することとしていたが、当該申請では、独立行政法人農業生物資源研究所の、従来から他の遺伝子組換えイネの使用等をしている隔離ほ場において、本遺伝子組換えイネの使用等をするものであり、場所の変更に対する特段の意見はなかった。

(2) 緊急措置計画書における実施体制の変更

人事異動に伴う一部変更があったが、対応の内容を変更するものではなく、引き続き、緊急措置の実施体制が取られるものであり、緊急措置計画書における実施体制の変更に対する特段の意見はなかった。

( 3 ) 生物多様性影響評価書を踏まえた結論

上記内容以外、前回申請内容と特段の変更点がないことを踏まえ、本遺伝子組換えイネを第一種使用規程に従って使用等をした場合に生物多様性影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断した。

### 3 意見を聴取した学識経験者

(敬称略 50音順)

氏名	現職
あべ みつとも 阿部 光知	国立大学法人 東京大学大学院 理学系研究科生物科学専攻 生物学講座 准教授
ありえ つとむ 有江 力	国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研究院 教授
いさぎ ゆうじ 井鷲 裕司	国立大学法人 京都大学大学院 農学研究科 教授
いとう もとみ 伊藤 元己	国立大学法人 東京大学大学院 総合文化研究科 教授
おおさわ りょう 大澤 良	国立大学法人 筑波大学生命環境系 教授
しのざき かずこ 篠崎 和子	国立大学法人 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授
しのはら けんじ 篠原 健司	独立行政法人 理化学研究所 社会知創成事業 バイオマス工学研究プログラム 副プログラムディレクター
たけだ かずよし 武田 和義	国立大学法人 岡山大学 名誉教授
たなか ひろし 田中 宥司	新潟薬科大学 応用生命科学部 教授
ふじい よしはる 藤井 義晴	国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研究院 国際環境農学部門 教授
よしだ かおる 吉田 薫	国立大学法人 東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授